

私は夏休みにアメリカのボストンとニューヨークに行きました。どちらの都市も美術館や図書館、公園が素晴らしく充実しており、とても感動しました。

一方で、ボストンで地下鉄に乗ると駅は薄暗くて、蒸し暑く（何と冷房が無くて扇風機だけ!）、変な匂いもしました。

また、ニューヨーク在住の方の話によると、地下鉄の車両が落書きのできない特別な素材でできており、一台に一億円もかかっているとのことでした。さぞかし乗り心地も良いのだろうと思いつつ乗ってみると、硬くて冷たい椅子でした。その方は、駅は以前よりもキレイになったけれども、税金が足りなくて町の中ではごみ収集がうまくいかず、臭いがする場所も多い。また、治安が悪いので、今年中学二年生になる息子さんの学校や習い事の送り迎えを常に自分の車でしているとも仰っていました。

さらに、高速道路がガタガタで線も見えない場所が沢山あったことにも驚きました。

帰国し、羽田でターミナル移動のためにモノレールに乗った時、清潔で明るい駅、何よりもフワツとした座席に座った瞬間に日本は快適だなと思いました。道路もアスファルトが新しく、白線も整備されていました。心なしか、車の乗り心地も良く感じられました。

これまで当たり前のように思っていた生活環境が、アメリカの大都市と違うことに私はとても驚きました。

そこで、公共事業関係費について調べてみました。公共事業関係費は、年間約六兆五百七十五億円、総予算の五、六%となっています。その中から道路や鉄道に関する予算が組まれています。

公共事業関係費の内訳は、公園の整備などに関する公園水道廃棄物処理等施設整備費はわずか二、七%であるのに対し、社会資本総合整備事業費と道路整備事業費併せて約五割になり、道路その他社会資本の整備にお金をかけています。また、鉄道のバリアフリー化やホームドア設置などにも税金が使われていることが分かりました。

広々とした美しい公園が多く、美術館等の施設が充実していることは心を豊かにします。

他方、鉄道、道路などのインフラ整備や、警察、消防、環境衛生などの公的サービスの充実は日々の生活の質を向上させます。

税について調べるほどに、限られた財源の中、配分がいかにか難しいか深く考えさせられました。

最後に、日本の良い部分を持続させ、これからも気持ちの良い生活を送るために、税金をみんなで負担することが大切だと改めて思いました。また、支出のみを考えるのではなく、ゴミを道端に捨てない・落書きをしないなど、個人個人の少しの協力によって税金の余分な支出を抑えることも大切だと海外の現状を見て強く思いました。